



梨の花

令和8年2月13日発行
文責 井上武人

- ◆学校教育目標 『たくましく 心豊かな 子どもの育成』
- ◆具体目標 「かしこく」 自ら学び、深く考える子ども
「なかよく」 感動する心と思いやりの心をもつ子ども
「たくましく」 自分の体を守り、鍛える子ども

豊小学校HP(ホームページ)アドレス <http://www.yutaka.m-alps.ed.jp/>

立春を過ぎ、暦の上では春を迎えましたが、まだまだ寒さの厳しい日が続いています。「1月は行く、2月は逃げる、3月は去る」という言葉の通り、3学期が始まってからあっという間に1か月以上が過ぎました。

振り返れば、1月9日(金)の3学期始業式では、2年生の〇〇〇さん、4年生の〇〇〇〇さん、6年生の〇〇〇〇さんが、冬休みの思い出や新年の抱負を力強く発表してくれました。校長からは「3学期の過ごし方」について、今年の干支である『午(うま)』になぞらえた話をしました。「今年は何年です。馬は走るのが速いので、今年の3学期はいつもより早く過ぎてしまうかもしれません。そこで、この短い時間を『最高にワクワクする時間』に変えるために、3学期を『次の学年の0(ゼロ)学期』と考えてみましょう」と呼びかけました。6年生なら「中学0年生」、5年生なら「6年生の0学期」として、次のステージに進む準備期間だと捉える考え方です。さらに、子どもたちへの一つのミッションを出しました。「次のステージに進む前に、弱い装備のままではゲームオーバーになってしまいます。今のうちに『自分の苦手なボス』を一つだけ倒してレベルアップしておきましょう」というものです。漢字、挨拶、靴を揃えること、友達への優しさなど、自分で決めた「苦手」に向き合い、克服しようとする子どもたちの真剣な眼差しが印象的でした。

さて、2月中旬を迎え、学校では子どもたちが寒さに負けず、それぞれの「レベルアップ」に向けて元気に取り組んでいます。学習のまとめはもちろん、縄跳びや外遊び、委員会活動など、次の学年を見据えた動きが頼もしく感じられます。保護者の皆様、地域の皆様におかれましては、今年度も豊小学校の教育活動に多大なる御理解と御協力をいただき、心より感謝申し上げます。

3学期も残り少なくなってきましたが、ここからは1年間の総仕上げをする最も大切な時期となります。特に6年生は、小学校生活6年間の集大成として、最後の授業である「卒業式」に向けた取組を進めつつ、中学校への新たなステップに向けて心の準備を整える大事な時期です。どの学年の子どもたちも、今のクラスで過ごす残りわずかな時間を大切に、「苦手なボス」をクリアして全員が笑顔で修了・卒業の日を迎えられるよう、教職員一同、最後まで一人一人に寄り添った指導をしてまいります。引き続き、温かい見守りをお願いいたします。



3 学期学級役員を紹介

1月20日(火)、オンライン学校集会にて3学期学級役員
の任命を行いました。任命された学級会長・副会
長たちの姿は、すでに次の学年を見据えたような自覚に

満ちていました。小笠原流礼法の厳粛な空気の中、一人一人に任命書を手渡しましたが、その真剣な眼差しからは、「クラスのみならず協力して、今の学年を最高の形で締めくくりたい」という熱い思いがひしひしと伝わってきました。

短い3学期ですが、リーダーたちの活躍と、それに呼応してクラス全員がレベルアップしていく姿を楽しみにしています。

学級名	学級会長	学級副会長	学級名	学級会長	学級副会長
6年1組			6年2組		
5年1組			5年2組		
4年1組			4年2組		
3年1組			3年2組		

私たちが受け継ぐ蚕糸の伝統（6年総合的な学習）

豊小学校で30年以上続く伝統の「養蚕学習」。今年も6年生が総合的な学習の時間に取り組み、春から大切に育ててきた蚕の繭は、子供たちの手によって美しい形へと生まれ変わりました。

1月15日(木)には、昨年に引き続き、東京・日本橋で作っておられる「龍工房」の福田隆様を講師にお招きしました。福田様は、皇室の帯締め、ラグビーワールドカップや先頃開催されたデフリンピックのメダルリボンなどを手掛けられる「現代の名工」です。当日は、子どもたちが育てた繭から引いた生糸を使い、直接御指導をいただきながら組紐づくりに挑戦しました。

また、この日は思いがけない特別なサプライズがありました。福田様は東京オリンピックの聖火ランナーを務められた方でもあります。なんと、実際に使用された桜ゴールド色の「聖火トーチ」を御持参くださり、子どもたちに持たせてくださいました。匠の技が光る伝統の組紐と、世界をつなぐオリンピックの聖火。二つの「本物」の重みと輝きを肌で感じた子どもたちの目は、驚きと喜びに満ちていました。

今回の取組は、蚕という小さな生き物が、子どもたちと日本を代表する名工を結び付け、教室の中にかげがえのない時間を生み出してくれました。物づくりの奥深さ、伝統文化の尊さ、そして人との

つながりの温かさ。卒業を目前にした6年生にとって、この経験は一生の宝物になることと思います。

